

倶多楽の火山活動解説資料（平成25年11月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～5）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

23日に現地調査を実施しました。大正地獄では、2011年以降の満水状態が続いており、熱水がごく少量流出しているのを確認しました。大湯沼爆裂火口では、噴気の状況に特段の変化はなく、北方噴気孔群では、「シュー」というやや大きな噴気音を伴い高さ10m程度の噴気が上がっていました。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 1-③）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年12月分）は平成26年 1 月14日に発表する予定です。

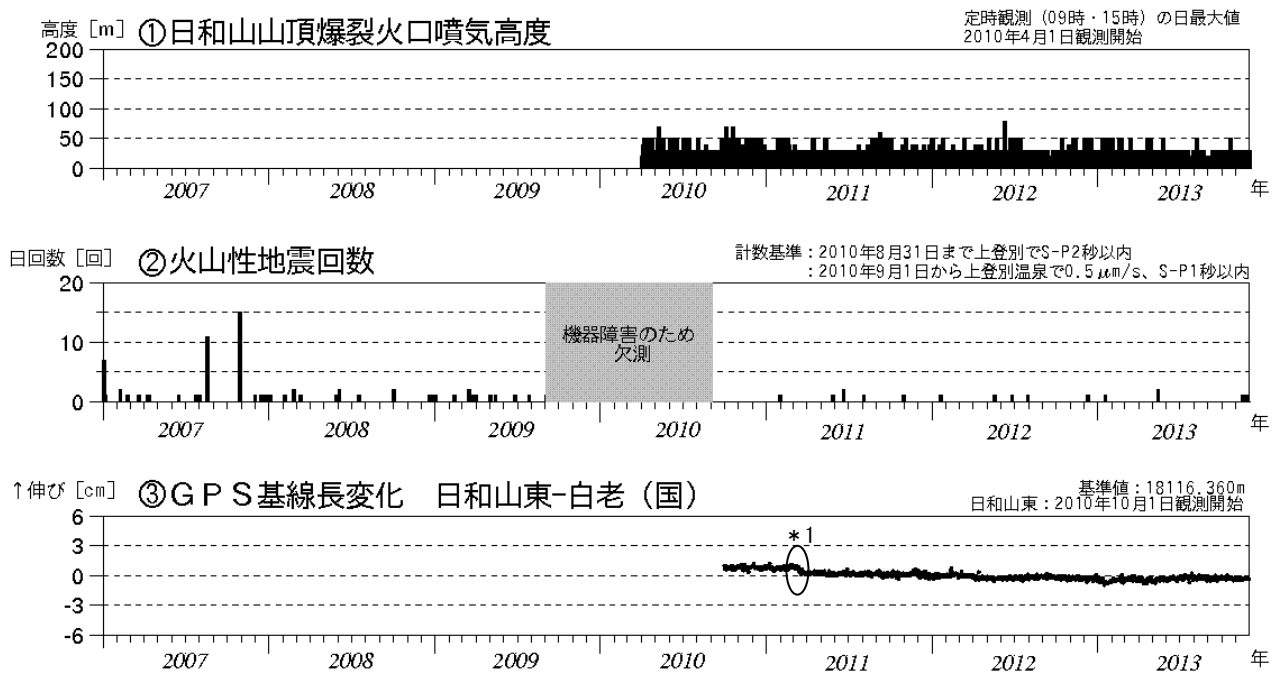


図 1 倶多楽 火山活動経過図 (2007年 1 月～2013年11月)、GPS連続観測点配置図

・ ③のGPS基線は右図に対応しています

・ (国) : 国土地理院

* 1: 楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

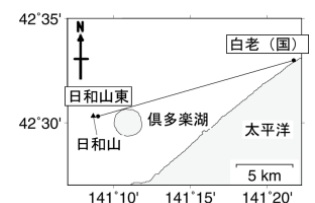


図 2 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
 (11月16日、414m山遠望カメラによる)



図3 倶多楽 周辺図と写真の撮影方向（矢印）



図4 倶多楽 大正地獄の状況 北側（図3-①の矢印方向）から撮影



図5 倶多楽 大湯沼の状況 南東側（図3-②の矢印方向）から撮影

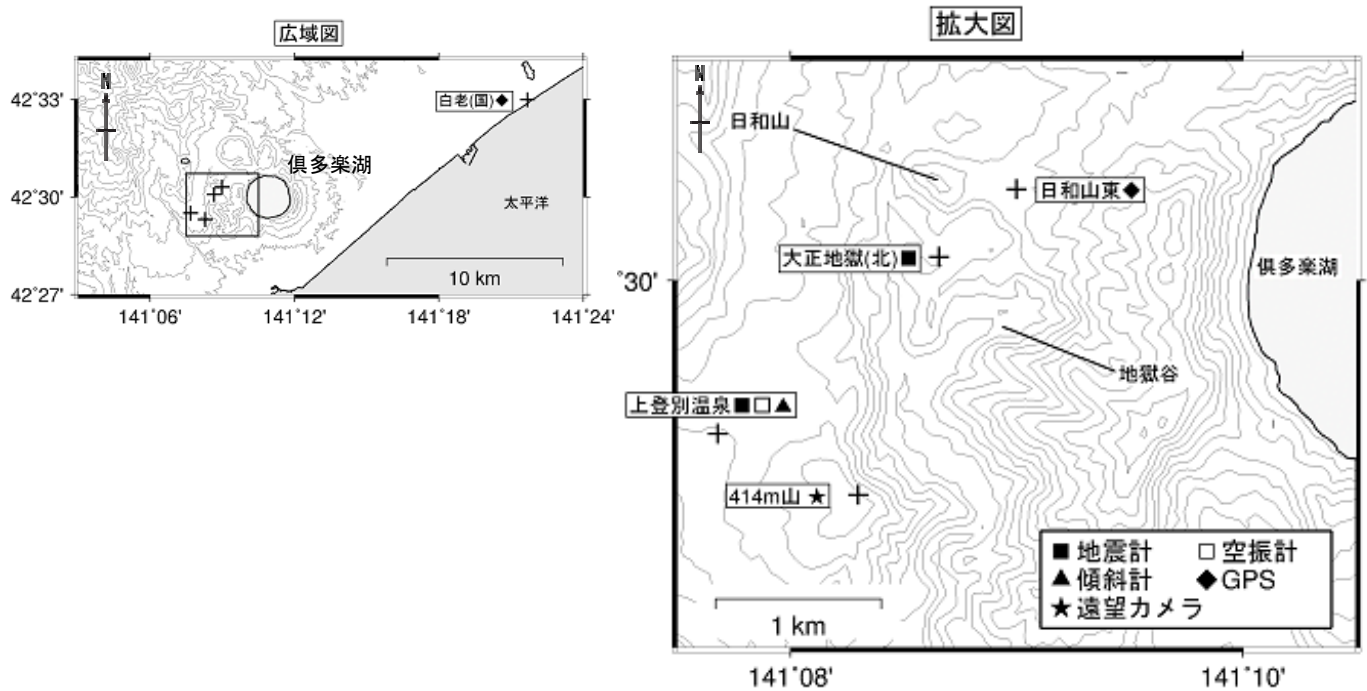


図 6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

+印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学